

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 関口 智子	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>(1) 教育</p> <p>① 両学部英語カリキュラム一元化に向けた準備</p> <p>2014年度後期より、両学部英語カリキュラム一元化にむけて検討を開始したが、いよいよ2017年度前期より一元化新カリキュラムがスタートすることになり、具体的な準備段階に入った。</p> <p>必修英語の小人数制クラスを実現するため、新たな非常勤講師の採用を行った。新カリ編成にともない、英語非常勤講師の両学部共通の採用要件を見直し作成した。JRECにより公募し、候補者の書類審査および模擬授業を含む面接を行った。第一次募集で十分な人員を確保できなかったため、第二次募集を実施した。</p> <p>新カリキュラムでは、新たに英語の副専攻制度が導入されることになり、すでに実施している他大学のケースも参考に、認定に必要な科目、単位数、各クラスの履修資格等を決定した。</p> <p>新カリキュラムでは、2つの必修英語科目 General English と Business English が開講されるが、前者のクラスで学期末に実施される共通スピーキングテストの内容、実施手順、採点基準などに関して作業グループで原案を作成した。</p> <p>② 「グループ研究」履修学生の通訳コンテスト出場に向けた指導</p> <p>2014年度より開講の「グループ研究 I,II」では、通訳訓練法を取り入れた英語力向上をめざす少人数クラスの授業を行っている。毎年12月初旬(2016年度は11月末)に「学生通訳コンテスト」を開催している名古屋外国語大学より、コンテストの推薦枠(1名)をもらい、前期および後期のクラスを通年で履修していた学生1名をコンテストに推薦した。コンテスト出場にあたり、あらかじめ通訳すべき対談のトピックが与えられていたので、事前に内容をリサーチし、語彙リストを作成するなど、授業以外で個別指導を行った。2016年度のテーマは“Youth Participation in a Globalized World”(グローバル時代における若者の政治参加)で、民主主義の変遷、主権主義と憲法など関連領域に関しても知識を広げることができた。コンテストでは、残念ながら本学の学生は入賞できなかったが、他大学の学生との交流で刺激を受け、英語学習のさらなる動機づけとなった。</p> <p>(2) 研究</p> <p>出版論文： 「冠詞の総称用法再考：英語とフランス語の用法から」 『地域政策研究』第19巻第4号 千葉貢教授退職記念号、pp. 229~pp.241、2017年3月</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>2017年度新カリキュラム開始にあたり、前期は6月と7月、後期は3月に、英語非常勤講師の教員連絡会を開催した。3月の説明会後には、新たに使用するテキストの出版社を招き、付属のオンライン教材の使用についてワークショップを行った。</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>2017年度の英語カリキュラム一元化に際し、両学部の英語教員と協力し、新体制でカ</p>	

リキュラムの運営にあたっていきたい。今後も、新たな非常勤講師の採用、シラバスのおよびテキストの再検討、担当者 28 配置など、新カリキュラムが円滑に実施されるよう取り組みたい。